『中原佑介美術批評選集』連動プロジェクト

# 中原佑介を読む

## 美術批評の地平 vol.2

中原估介氏は、戦後美術批評の地平を開き、透徹した論理と平易な語り口をもって、戦後日本の現代美術批評を牽引してきました。1955年、「創造のための批評」での鮮烈なデビューから、日本初の本格的な国際展となった1970年の「人間と物質」展、科学技術と芸術の問題を論じた『大発明物語』(1975年)、現代美術や現代彫刻についての入門書、そして2000年代の「大地の芸術祭」をめぐる一連の批評まで、氏の仕事は、戦後美術のあらゆるテーマを包括していたと言えるでしょう。その膨大な仕事をまとめた『中原佑介美術批評選集』(全12巻一うち1巻は英語版)の刊行が2011年8月よりスタート、2015年3月の完結を目指して出版が続いています。

「中原佑介を読む」第2弾は、選集で刊行されている巻に従って、そのテーマにふさわしい批評家、キュレーター、アーティスト等を招き、中原氏のテキストを自らの問題意識に照らしあわせながら読み込んでいきます。受講者は、同テキストを事前に読んでくることを前提として参加していただき、発表に対する質疑応答、議論を行いたいと思います。深い議論が展開されると思いますが、美術研究者だけでなく、様々なクリエーションの現場に関わる若い世代の参加を期待します。

会 期 | 2013年5月~2014年3月 各月1回※8月を除く〈全10回〉

時 間 | 19:30~21:30

定 員 | 25名(応募多数の場合は選考あり)

参加費 | 全回通し 一般 20,000円 学生 10,000円、 会員・スクール生 18,000円

申 込 | 応募用紙に、氏名、所属等の他、自己紹介(+参加動機=400字程度) を記入し、以下までメールないしファックスで提出してください。

問合せ | BankART スクール事務局

school@bankart1929.com

TEL 045-663-2812 FAX 045-663-2813

会 場 | BankART Studio NYK 〈6月、9月、11月、1月、3月〉

〒231-0002横浜市中区海岸通3-9

横浜みなとみらい線[馬車道駅]6番出口[赤レンガ倉庫口] 徒歩5分 クラブヒルサイドサロン〈5月、7月、10月、12月、2月〉

〒150-0033東京都渋谷区猿楽町30-2

ヒルサイドテラス アネックスB棟2F

東急東横線「代官山駅」下車 徒歩3分

主催:BankART1929、クラブヒルサイド

#### 『中原佑介美術批評選集』

第1巻『創造のための批評―戦後美術批評の地平』

第3巻『前衛のゆくえ―アンデパンダン展の時代とナンセンスの美学』

第4巻『「見ることの神話」から―アイディアの自立と芸術の変容』

第5巻『「人間と物質」展の射程— 日本初の本格的な国際展』

第6巻『現代彫刻論―物質文明との対峙』

第9巻『大発明物語―芸術と科学的思考』 発行:現代企画室+BankART出版

NV NV NV

受講生の方は、BankART1929、スクール会場にて各巻を本体価格より¥1,200割引でご購入頂けます

#### 第1回 「第1巻 創造のための批評―戦後美術批評の地平」〈1〉

#### 椹木野衣 | 5月14日[火] | クラブヒルサイドサロン



さわらぎのい | 美術評論家、多摩美術大学美術学部教授。1962年埼玉県生まれ。評論のほかに、新たな視点で話題を呼んだ展覧会「日本ゼロ年」「アノーマリー」などを企画。主な著書に「日本・現代・美術」「戦争と万博」「反アート入門」など。近年は岡本太郎の再評価や戦争記録画の再考にも力を注ぐ。

#### 第2回 第1巻 創造のための批評―戦後美術批評の地平」〈2〉

#### 岡崎乾二郎 | 6月15日[±] | BankART Studio NYK



おかざきけんじるう | 造形作家、批評家。1955年東京生まれ。82年パリ・ビエンナーレ招聘以来、数多くの国際展に出品。2002年にはセゾン現代美術館にて個展。同年「ヴェネツィア・ビエンナーレ第8回建築展」(日本館ディレクター)、現代舞踊家トリシャ・ブラウンとのコラボレーションなど、つねに先鋭的な芸術活動を展開、近畿大学国際人文科学研究所教授、副所長。

#### 第3回 「第4巻 「見ることの神話」から一アイディアの自立と芸術の変容」

## 福住治夫 | 7月9日[火] | クラブヒルサイドサロン



ふくずみはるお | 1939年兵庫県生まれ。1967年より「美術手帖」誌 (美術出版社) の編集にたずさわり、1971年から73年にかけて編集長をつとめる。その後、同社で書籍を編集。80年よりフリーの編集者/美術ジャーナリストとして活動。97年より美術誌月刊『あいだ』を主宰(同誌は2013年3月現在201号を数える)。トム・ウルフ『現代美術コテンパン』、アンディ・ウォーホルナパット・ハケット『ポッピズム』、エイドリアン・フォーティ『欲望のオブジェ』など、高島平吾名での訳書も多いが、現在は前記『あいだ』の編集に専念。

#### 第4回 『第3巻 前衛のゆくえ―アンデパンダン展の時代とナンセンスの美学』

#### 林 道郎 | 9月10日[火] | BankART Studio NYK



はやしみちお | 美術史、美術批評、上智大学国際教養学部教授1959年生まれ。主な著書に『絵画は二度死ぬ、あるいは死なない』『ゲルハルト・リヒター』(共著)『シュルレアリスム美術を語るために』(共著)など。訳書にエミール・ディ・アントニオ+ミッチ・タックマン『現代美術は語るーニューヨーク・1940 - 1970』(青土社)など。

#### 第5回 第5巻 「人間と物質」展の射程―日本初の本格的な国際展」(1)

#### 加治屋健司 | 10月8日[火] | クラブヒルサイドサロン



かじやけんじ | 1971年千葉県生まれ。広島市立大学芸術学部准教授。日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ代表。『中原佑介美術批評選集』編集委員を務める。共編著に『広島アートプロジェクト2008』、『From Postwar to Postmodern, Art in Japan 1945-1989』、共著に『マーク・ロスコ』など。共訳にポワナクラウス『アンフォルム』。

#### 第6回 「第5巻 「人間と物質」展の射程―日本初の本格的な国際展」〈2〉

#### 光田由里 | 11月12日[火] | BankART Studio NYK



みつだゆり | 美術評論家、兵庫県生まれ、京都大学文学部卒業。専門は近現代美術史および写真史。著書に「高松次郎 言葉ともの一日本の現代美術1961-72」『写真、芸術との界面に一写真史一九一〇年代一七〇年代』『『美術批評』誌とその時代』。共著に『大辻清司の写真―出会いとコラボレーション』『野島康三写真集』など。

#### 第7回 第6巻 現代彫刻論―物質文明との対峙 (1)

#### 近藤幸夫 | 12月10日[火] | クラブヒルサイドサロン



こんどうゆきお | 近・現代美術史、慶應義塾大学准教授。1951年生まれ。慶應義塾大学大学院修了。80年から96年まで東京国立近代美術館勤務(主任研究官)。同館で「マチス展」「1960年代―現代美術の転換期」「現代美術における写真」展などを担当。主な著訳書に「プランクーシ作品集」(共訳) 『カラー版20世紀の美術』(共著) 『ソフィ・カル―歩行と芸術』(共著) など。

#### 第8回 第6巻 現代彫刻論―物質文明との対峙』(2)

#### 早見 尭 | 1月14日[火] | BankART Studio NYK



はやみたかし | 美術評論家、阿佐ヶ谷美術専門学校研究科科長。専門は近・現代美術、美術評論。早稲田大学第一文学部卒業。共著に『現代芸術事典』 『近代名画歴訪とアメリカ現代美術』『現代美術演習Ⅲ』『山田正亮作品集』 『二枚の絵』『カラー版20世紀美術』など。訳書にG・アイスラー『巨匠の 裸婦デッサン』など。

#### 第9回 「第9巻 大発明物語―芸術に対する科学的思考」(1)

#### 池上高志 | 2月18日[火] | クラブヒルサイドサロン



いけがみたかし | 複雑系科学、東京大学教授。1961年長野県生まれ。東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。現在は東京大学大学院総合文化研究科教授として教鞭を執る傍ら、複雑系科学研究者として、アートとサイエンスの領域を繋ぐ活動も精力的に行う。著書に『生命のサンドウィッチ理論』「動きが生命をつくる一生命と意識への構成論的アプローチ』など。

#### 第10回 『第9巻 大発明物語―芸術に対する科学的思考』〈2〉

#### 木幡和枝 | 3月11日[火] | BankART Studio NYK



**こばたかずえ** | アート・プロデューサー、翻訳家、東京藝術大学先端芸術表現科教授、1946年東京生まれ。TBSブリタニカ、工作舎を経て、82年にアーティスト共同運営スペース「plan B」設立、88年より「白州・夏・フェスティバル」事務局長・実行委員。現在、P.S.1現代美術センターなどの客員キュレーターを務める。主な訳書にスーザン・ソンタグ『この時代に想う』『良心の領界』『同じ時の中で』、ローリー・アンダーソン『時間の記録』、トニー・ゴッドフリー『コンセプチュアル・アート』など。



バンカートスクールは、横浜・馬車道に残る歴史的建造物を芸術文化に活用したBankART1929のプログラムのひとつとして、2004年4月に開校しました。バンカートスクールの守備範囲は美術・演劇・写真・建築・音楽・ダンスなどアート全般におよび、講師は各ジャンルの第一線で活躍する人たちばかり。子供向けのワークショップから専門性の高い講座までレベルはさまざまですが、いずれも少人数制で、講師と受講者同士の親密な交流を重視する現代の寺子屋をめざしています。バンカートスクールは日曜を除くほぼ毎日、休み無く開講しています。

この9年もの間で講座236、述べ725人の講師の方々をお招きしました。受講生は4歳のおじょうちゃんから85歳のおじいちゃんまで、述べ3600人をこえます。 ぶっちゃけ話、これらの講座をうけたところで即戦力にはならないし、なにか資格が得られるわけでもありません。 受けるだけではなんの役にも立たないのです。 むしろここから自分たちでなにを立ち上げていくのか、それが問われているのです。

バンカートスクール校長 村田 真

## 清水實二 「能と出会う part2」

1) 5/27 2) 6/3 3) 6/17 4) 6/24 5) 7/1 6) 7/8 7/15 87/22



今年は世阿弥生650年とか。みなさんは、「能」と 言ってどんなイメージを持っていらっしゃるだろうか。 能の戯曲や舞台構造は異次元との交信をしている ようで、面白いです。実際にどんな身体の使い方を しているのかも、立ち方・歩き方からやってみましょう か。舞踊面や音楽構造 (謡や囃子のこと)、また面 や装束にも実際に触れる中で、短い期間ながら、そ れぞれの作品を作っていただければ幸いです。能役 者はそれぞれの身体を、どう把握し改造し、どう能の 中に生かしていくか一生追及するのですが、これが なかなか魅力です。

しみずかんじ |観世流シテ方能楽師、銕仙会http:// tesenn.org所属。沖縄県立芸術大学非常勤講師。観世寿 夫、八世観世銕之亟 (人間国宝)、九世観世銕之丞に師 事。復曲能や新作能(シテ・演出は多田富雄作「一石仙 人」「長崎の聖母」「横浜三時空」「沖縄残月記」など)、海 外公演などにも多く参加。昨年はダニー・ユン・佐藤信演 出「霊戯」東京・シンガポール公演に参加。座間市在住。 http://shimikan.com



## みかんぐみ 「人口減少期の建築/ 建築家の役割ってなに?」

15/21 25/28 36/4 46/11 56/18 66/25 7/2 8 7/9



最近話題のトピックの一つ「人口減少」。社会構造 が変革するときに、建築物や建築家の役割はどん なものになっていくのでしょう。みかんぐみとしても 気が気ではありません。人口減少のメカニズムを確 認したり、そういった時代の社会の様子に目を向け たりしながら、建築や建築家の役割に迫りたいと思 います。みかんぐみの専門分野から少々はずれてい ますから、毎回ゲストをお招きして、深く楽しく激し く話し合う予定です。

みかんぐみ | 加茂紀和子、曽我部昌史、竹内昌義、マニュ エル·タルディッツによる建築設計事務所。1995年NHK 長野放送会館の設計を機に共同設立。戸建住宅から、保 育園、グループホームやライブハウスなどの建築設計を 中心に、家具、プロダクトやアートプロジェクトまで幅 広くデザインを手がけている。

テーマA:「人口減少のメカニズム(人口減少の理由 と、状況)|

テーマB:「人口減少社会のありかた(どういう社会 システムが可能か)」

B-1:「経済的視点での地域のあり方」

B-2:エネルギーと自立

B-3:商店街を通してみる人口減少期

B-4:震災後にみえる新たな地域像。

B-5:福祉的視点で見るこの先の可能性

テーマC:「その中での、建築や都市の可能性。」

C-1:都市のあり得べき姿

C-2:建築の向かうべき方向

ゲスト=**大江守之**(慶應義塾大学教授)、**馬場正尊**(OPEN A/東北芸術工科大学准教授)、木下 斉(俎)エリア・イノベー ション・アライアンス代表理事)、大野秀敏(東京大学大学 院教授)、他

### 大野慶人 舞踏教室「本質と存在について」

水 wed. 19:30-21:30

15/22 25/29 36/12 46/19 56/26 67/3 77/10 87/17



舞踏は、1959年に上演された土方巽作品「禁色」 に始まると言われています。60年代には土方巽のダ ンスエクスペリエンス連続公演により、舞踏は華々し い揺籃期を迎えます。私も大野一雄、土方巽ととも にその渦中におりました。今私自身の体験を振り返 り、再び問いたいと思います。舞踏の創始者、土方 異、大野一雄の基礎は何であったのかと。特に、土 方巽の本質と存在の奇跡的結合、大野一雄の「命」 についての考え方、舞踏との関係についてなど、皆 様にお伝えしましょう。

おおのよしと | 1938年東京に生まれる。1959年土方巽 の「禁色」で少年役を演ずる。以後、アルトー館、暗黒舞 踏派公演に参画。1969年初リサイタルのあと舞台活動を 中断。85年「死海」の大野一雄との共演でカムバックし た。86年以降大野一雄の全作品を演出。1998年、郡司正 勝氏の遺稿を基に自身のソロ作品「ドリアン・グレイの 最後の肖像」を上演。近作に「たしかな朝」(2010)、「時 の風」(2012)など。著書に「大野一雄 魂の糧」(フィル ムアート社)。



## Part 2 77/4 87/11

15/16 25/23 35/30 46/13 56/20 66/27

木 thu. 19:30-21:30

創造都市横浜のこれまでとこれから



他都市に先駆けて取り組んできた横浜の「創造都 市」は、文化芸術・経済振興と横浜らしい魅力的な 都市空間形成というソフトとハードの施策を融合さ せたユニークな都市ビジョンです。今回の講座では、 横浜の創造都市が育ってきた土壌の歴史をあらため て振返りながら、より広く、より深く創造都市につい て学ぶ場を持ちます。各回の発表は事業を担当して いる横浜市文化観光局の職員が中心に行い、ゲスト に専門家としてのアドバイスやヒントをいただきなが ら自由に議論します。

①5/16「創造都市はブランドカUPに貢献できるのか」 ゲスト=伊藤香織(東京理科大学准教授)+古川 誠(オズ マガジン編集長

横浜市=守屋喜代司(創造都市推進課)+鬼木和浩(文化 振興部文化振興課主任調查員)

②5/23「創造都市と賑わい・観光」

ゲスト=梅川智也(日本交通公社)

横浜市=藤田健一(創造都市推進課)+赤岡謙(観光コン ベンション振興部長)

③5/30「創造都市をまちづくりから考える」

ゲスト=北川フラム(アートディレクター) 横浜市=吉田聡子(創造都市推進課)+秋元康幸(建築局 企画部長)

④6/13「横浜夜景とスマートイルミネーション横浜」

ゲスト=田中謙太郎 (照明デザイナー)

横浜市=新谷雄一(創造都市推進課)+岡崎三奈((公財) 横浜観光コンベンション・ビューロー経営部長)

⑤6/20 「芸術不動産リノベーションのこれまでとこれから」

ゲスト=西田 司(オンデザインパートナーズ代表取締役) +**中村真広**(ツクルバ代表取締役CCO)

横浜市=肥山達也(創造都市推進課)+鈴木智之(都市整 備局企画課長)

⑥6/27「都市を拓くトリエンナーレ」

ゲスト=**吉見俊哉**(東京大学大学院教授・社会学者) +逢坂恵理子(横浜美術館館長)

横浜市=田邊俊一(創造都市推進課) +松村岳利(横浜魅 力づくり 室長)

⑦7/4 「東横跡地に見る基盤整備×創造都市×都市デザイン | ゲスト=塚本由晴(東京工業大学大学院准教授、建築家)

横浜市=桂 有生(都市整備局都市デザイン室) +飯島悦郎((一社)横浜みなとみらい21派遣)

⑧7/11 「映像文化都市・横浜」が映し出す未来

ゲスト= 岡本美津子(東京藝術大学大学院映像研究科教授 アニメーション恵政)+森川喜一郎(明治大学国際日本学 部准教授/章匠論・現代日本文化)

横浜市=大崎敬一 (横浜魅力づくり室企画課)十佐野和博 (創造都市推進課)+神部浩(横浜魅力づくり室企画課長)

### アフリカで日本人が学校をつくる 松原弘典/長谷部葉子/他

15/24 25/31 36/7 46/14 56/21 66/28 7/5 87/12





建築家の松原弘典と教育研究家の長谷部葉子は、 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの大学研究室を 拠点に、2008年よりアフリカ・コンゴ民主共和国キ ンシャサ市で小学校の設計・建設・運営プロジェクトを 進めてきている。このゼミでは、世界最貧国と言わ れる国に日本の若者を送りこんで学校をつくるとい うこのプロジェクトがどのようなもので、日本にいる 我々にどのような意義があるのかを、8回に分けて お伝えする。6年目に入ったこのプロジェクトの今ま でを振り返り、これからの最後の仕上げに向けての 検討も行いたい。最貧国で作られる建築がどのよう なものか? イマドキの日本の若者にアフリカでできる こととはなにか? 日本からできる途上国支援の新し いあり方とは? さまざまな問題をそこに重ね合わせ てみることができるだろう。

まつばらひろのり建築家、慶應義塾大学総合政策学部准 教授。1970年生まれ。97年東京大学大学院修了。97-01年 伊東豊雄建築設計事務所勤務。2005年北京松原弘典建 築設計公司設立。博士(環境学)。主な設計作品に「三里屯 village北区イースト」(北京、07年)など。主な著作に「未像 の大国-日本の建築メディアにおける中国認識」(鹿島出版 会、11年)がある。

はせべようこ|研究教育家、慶應義塾大学環境情報学部准教 授。1959年生まれ。2000年慶應義塾大学大学院修了。専門 領域はフィールドワークを中心とした、教育とコミュニケーション。 特に異言語・異文化コミュニケーション、英語教育、カリキュラム デザインとその教授法。コンゴ小学校建設・運営、The Young Americans、公立中学校でのNew York City 姉妹都市、口永 良部島の4つのプロジェクトに取り組んでいる。主な著作に「今、 ここを真剣に生きていますか?」(講談社、12年)がある。

①5/24「アフリカで小学校の校舎をつくる-アカ デックス小学校の設計・建設プロセス」松原弘典

②5/31「コンゴの都市と建築-コンゴ日本文化セン ターの設計と建設 | 松原弘典

③6/7「アフリカで人をつくる-教育活動の実践」 長谷部葉子

④6/14「コンゴの高等教育における日本語教育-ゴンベ教員大学での試み」長谷部葉子

⑤6/21「アフリカで医療をつくる-途上国での医療教 育実践」安井正人(医師、研究者、慶應義塾大学医学部教授)

⑥6/28「ザンビアのマタニティハウス-NGO・ユニクロ・地

元100人と作った建築」遠藤幹子(建築家、office mikiko代表) ⑦7/5「アフリカで医療をつくる-子どもたちへの保健

教育の可能性」藤屋リカ(保健師、看護師、慶應義塾大学看 護医療学部専任講師)

⑧7/12「アフリカから拡がる建築と教育のコラボ レーション」松原弘典+長谷部葉子

最終回は、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス

## コレヨコ again ※この講座は無料です

参加条件=原則全回出席+参加動機200字程度提出

16/7 26/14 36/21 46/28 57/5 67/12 7/19 87/26



2011年2月から3月、東日本大震災を跨いで続け られたBankART school 「これからどうなるヨコハ マ研究会」はディスカッションの場だった。約100人 が参加し、皆よく聴いてよく議論した。でも熱が少し 上がったな、と感じた当時を思い起こしながら、本に なったコレヨコを読み直し見ると、それぞれの表現は 豊かで魅力的ながら、全体として意志がなく、パッ チワーク的な軽さを感じる。コーディネイターのもう ひとり、建築家の馬場正尊さんが横浜のことを称し て、「プロジェクト・シティ・ヨコハマ」と書いてくれた が、そのプロジェクトがきちんと連鎖されていない。 それはコレヨコだけに限ったことでないが「歴史的認 識の共有」が進んでいないのだ。故北沢猛の最初 の仕事が横浜の都市計画史の編纂だったということ を受けて、今回の「コレヨコ again 」では、前半3回 を使って開港から現在までの150年を振り返ってみ ようと思う。そして横浜の内のことに留まることなく、 東京との関係についても深く言及し、それらを共有 した上で、前回のようにテーマに分かれてゼミスタイ ルで熱い議論を交わしていきたいと考えている。

#### ①6/7「歴史認識の共有1」

開港から昭和30年代まで:横浜の都市形成(都心部・臨海 部・郊外部 / 都市計画・港湾計画・都市災害・接収など) ゲスト=石黒徹(横浜都市研究会・元横浜市職員)

#### ②6/14「歴史認識の共有2」

六大事業から創造都市直前まで:プロジェクト(六大事業) の展開と継承・コントロール(開発抑制)・アーバンデザイン ゲスト=**土井一成**(横浜市水道局)+**加川浩**(加川設計事務所)

#### ③6/21 歴史認識の共有3

創造都市から未来へ:シティー・リージョンと新たな横浜 開国の可能性

ゲスト= **岡部明子**(千葉大学准教授)+野原 卓(横浜国立

④6/28 研究会1、⑤7/5 研究会2、⑥7/12 研究会3、 ⑦7/19 研究会4、⑧7/26 研究発表

#### 研究会テーマ(案)

1. 都心: インナーハーバーのこれから/歴史的な二拠 点型都心のこれから

2. 路面: 都市と建築との境界のこれから(移動・コミュ ニティ・商業他)

3. 人口:東京の郊外と横浜の郊外の斑状態のこれから /統治形態/被災対応

4. 観光:文化観光のこれから/横浜らしさ/シチズン プライド

各研究会は以下のゲストレクチャラーを予定していま

す(調整中) 石川 初(ランドスケープデザイン)、馬場正尊(OPEN A/東

北芸術工科大学准教授) 三浦 展(消費社会研究家) 構造 市都市計画関係者、他

## **BankARTschool**

#### Bank ART スクールの概要

2013年5月-7月期

週1回、2ヶ月間で全8回。定員は20名程度。 時間= 19:30~21:30

会場= BankART Studio NYK に

#### スクール受講生の特典

受講生には学生証を発行します。また、BankART ショッ プでの買い物が5%割引、BankARTパブおよびカフェの 1,000 円チケットが 10% 割引となります。

#### お申し込み方法

①受講したい講座名 ②お名前 ③ご住所 ④電話番号 ⑤メールアドレスを、メール・FAX・ 電話のいずれかにてお知らせください。その際に受講料の振込先をお知らせいたします。 1 講座 15,000 円 (税込)。はじめての方は入学金 3,000 円 (税込) も一緒にお支払いた だきます。入金が確認でき次第、手続き完了となります。

一旦納入された受講料は返金できませんのでご了承ください。

また、講座によっては別途材料費や資料代がかかる場合があります。申し込み受付は定員 になり次第、終了させていただきます。

お申し込み・お問い合わせ: BankART スクール事務局

school@bankart1929.com TEL 045-663-2812 FAX 045-663-2813 BankART Studio NYK 〒 231-0002 横浜市中区海岸通 3-9